

[特産園芸作物の病害虫防除に関する試験]
八丈島におけるクワゴマダラヒトリの発生状況 (2002年)

星 秀男・山中正弘*・小谷野伸二*²

(八丈島園芸技術センター・*八丈支庁・*²環境部)

【目 的】

八丈島では、2000年以降クワゴマダラヒトリの多発が認められ、地域によっては各種園芸作物にも被害が及んでいる。そこで、本虫防除対策の基礎資料とするため、越冬幼虫および成虫の発生状況について調査する。

【試験方法】

越冬成虫の発生状況を都道沿いや圃場周辺の植生において観察した。また、島内5カ所に青色蛍光灯によるライトトラップを設置し、成虫の誘殺数を調査した。

【成果の概要】

1) 越冬幼虫の発生：本年の発生は2月中旬より認められ、例年とほぼ同様であった。しかし、その後の幼虫の成長は早く、5月下旬には蛹化しものと判断された。蛹化の時期は2000～01年と比較して約1ヵ月早かった。幼虫の発生量は島内全体ではほぼ例年と同様と推察されたが、地域によるバラツキが大きかった。

2) 成虫の発生状況：本年の成虫のライトトラップへの誘殺は8月21日に初確認され、終息は10月16日で、発生期間については2000～01年と大きな違いはなかった。雄成虫誘殺のピークは各地とも9月10日、雌成虫は9月10日～17日であったが、ピーク時の雄成虫誘殺数は地点によって大きく異なり、最多は大賀郷Aの816頭、最少は永郷の41頭であった(図1)。

調査地点のうち、継続して調査を実施している4地点で、旬ごとの誘殺数の年次推移を比較すると、雄成虫は大賀郷Aを除く他の3地点で年々増加していることが判明した。すなわち、2002年の誘殺数は、大賀郷Bで2001年の1.7倍、2000年の4倍、同様に三根で1.5倍、4.6倍、中之郷は2001年からの設置であるが、昨年(2001年)の5.2倍であった。また、大賀郷A、大賀郷Bおよび三根の3地点では2000年より雄成虫誘殺のピークが12日、2001年より7日～10日早かった(図2)。一方、雌成虫の誘殺数は三根および中之郷で増加傾向を示したが、大賀郷の2地点では年次による変動が大きかった。また誘殺のピークは3年間ともにほぼ同様であり、雄成虫誘殺のピークより4日程度遅かった。

本年調査期間中の総誘殺数における雄雌の性比は、大賀郷2地点および三根で1/20～1/46(雌/雄)であったが、中之郷は1/8と他地点より雌の比率が高かった。

まとめ：クワゴマダラヒトリ成虫の発生状況は年々変化していることが確認され、この3年間では増加傾向にある地域も認められた。成虫の発生推移がその後の幼虫の発生状況や被害に直接的に結びつくとは言えないが、発生動向の変化には留意する必要がある。本虫防除において、地域によっては共同防除を実施し、効果を上げている。今後はこのような地域ぐるみの取り組みを島内全域に拡大していくことも必要と考えられる。

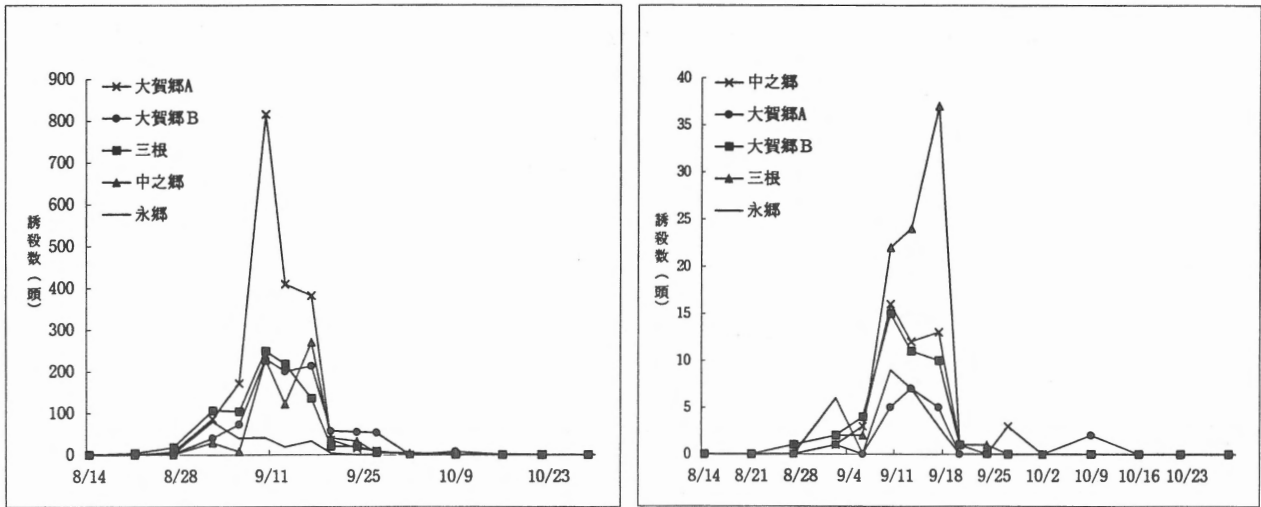


図1 2002年の各地におけるクワゴマダラヒトリ成虫の誘殺数(左:雄 右:雌)

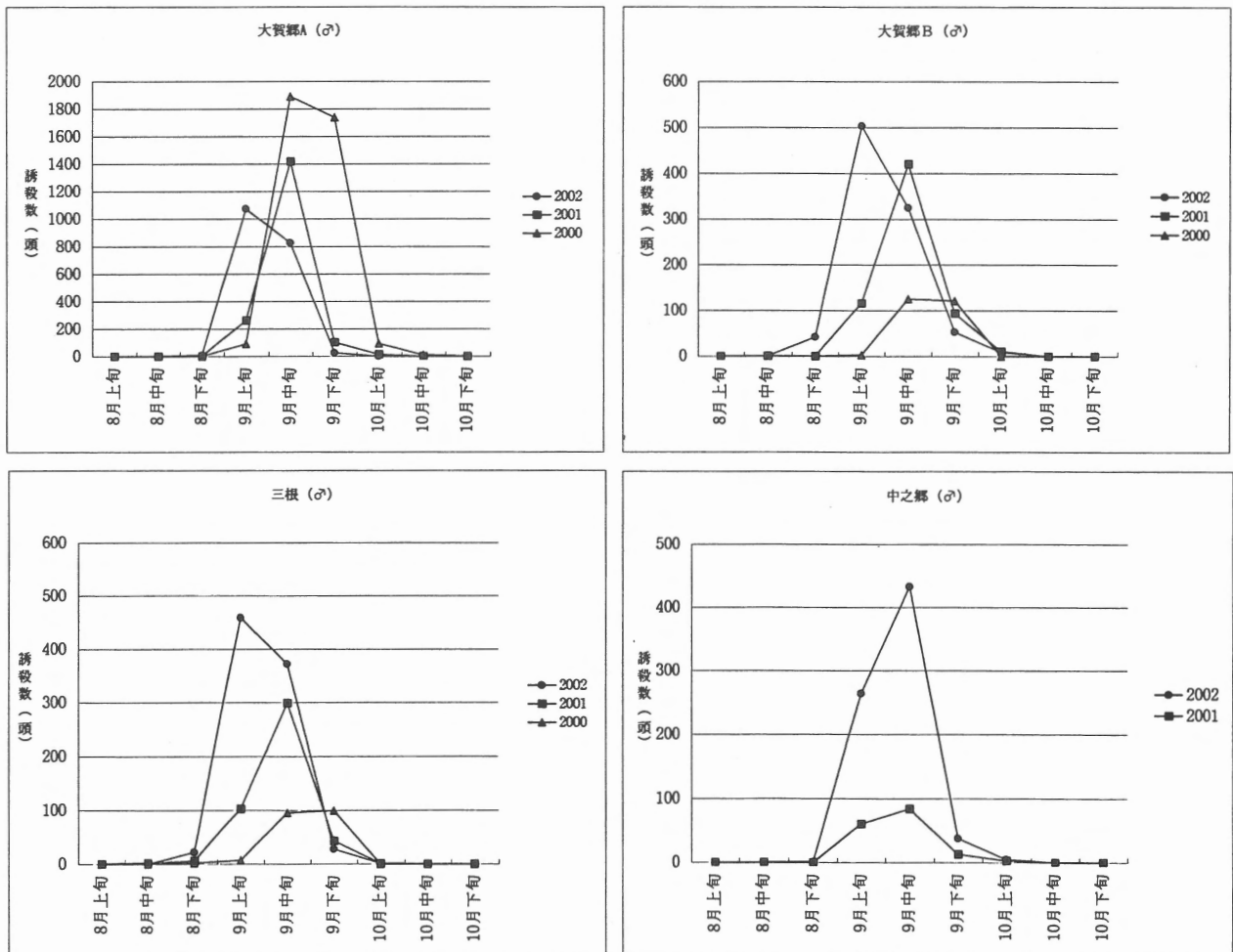


図2 各地点における雄成虫誘殺数の年次比較